

会津大学短期大学部研究年報第54号 pp.107～132 (1997)

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

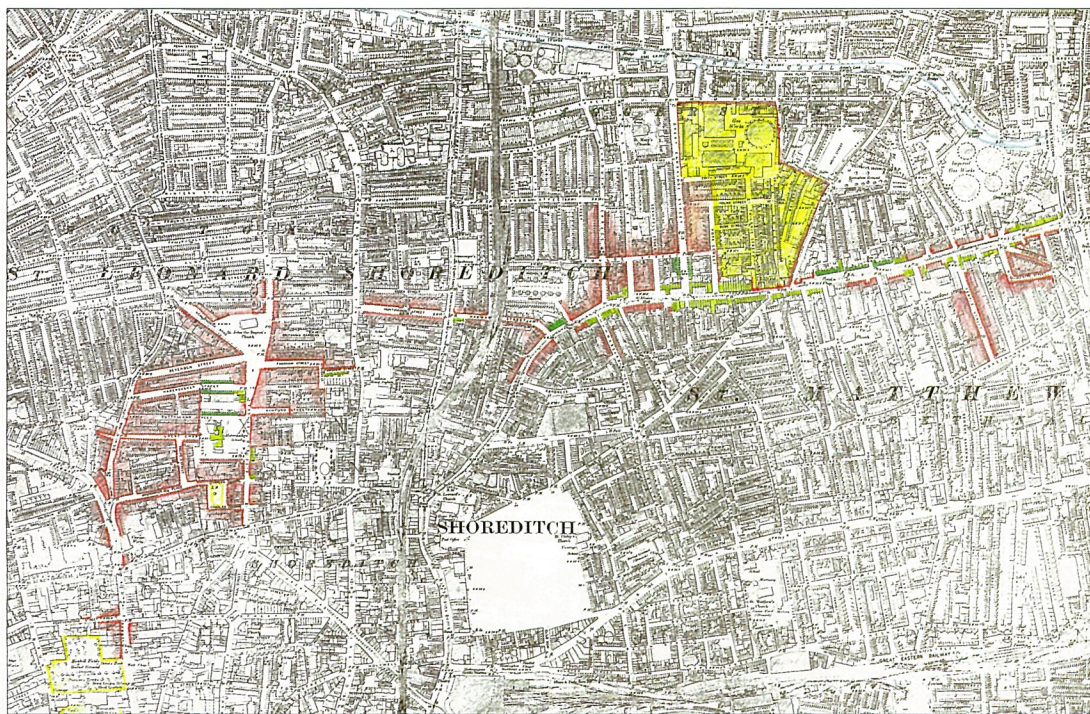
研究ノート(1)

時野谷 茂

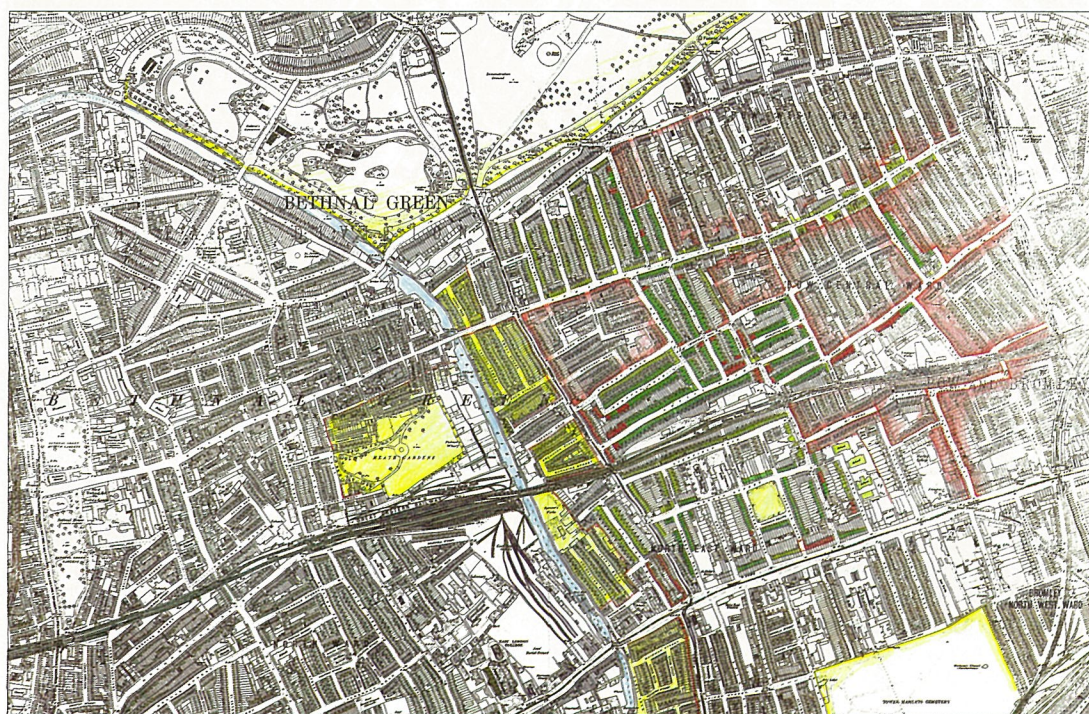
はじめに

私は文部省の公立短大在外研究補助事業の助成を得て1975年夏から半年間ロンドンに滞在する機会を得た。ロンドンの南西部地区のはずれの住宅街に居を定め、有名建築と市街地の景観を見て歩く日々の中で、有名建築もさることながら私の住む家自体が大変興味深いものであることに気づいた。その家は街区のはじめの2住戸分は現代建築に建替えられていたものの残りは次の角まで続く煉瓦造3階建の長屋であり、優に200mは続いていた。しかし全住戸が全く同じと言うわけではなかった。それは建物全体に塊としてのデザインが施されており、規則的に数住戸をひとまとまりとするような凹部が組み込まれていた。また、外壁および玄関ドアの色、屋根裏部屋の増築など建物建設後住まい手が施した変化もみられた。各住戸単位でも、そこには建物全体のデザインを反映する部分と、住まい手の好みを反映する部分と二重になっていた。そのような目で辺りを見渡すと通りの向かいの建物もこれは建替えられた部分など無い完全な形で街区いっぱいには続く長屋であり、各住戸の変化はこちら側よりずっと激しい。次の通りもこのような形式の建物が両側に立ち並んでおり、商店街も1階が店舗である点と前庭が無いことを除けば同様であった。町全体が同様の建物で埋め尽くされており、所々に新しそうな建物があると言った状況であった。そしてそれは改めてみるとロンドン中に広がっていきそうであった。事実文献的に調べてみるとそれらはロンドン中を埋め尽くしていたようであるが、後日東部を調査してみると見事に再開発されて住戸は高層集合住宅に集約され、この種の建物がびっしり埋まっていた地区が広々とした公園に生まれ変わっていたのには何か複雑なものを感じた。その現存状況については地図：01～04に示すとおりである。ロンドン南西部では驚くほど良く残っているが東部ではこれまた見事にクリアランスされている。高級住宅地として開発され、その延長線上にある南西部およびその周辺ではもう沢山と言うほど次から次へとこの種の建物が続くが、東部ではどうしてと思うほど無い。地図によればびっしりと埋め尽くしているはずの Terraced House(*) が。あるのは広々とした空地と公園それに高層集合住宅である。ただ面白いのはそんな再開発地を縁取るように商店街は古いままの形で続いている。再開発地周縁の古い建物の残り方に、そこでの人間模様が映し出されている感じがした(地図：01,02参照)。

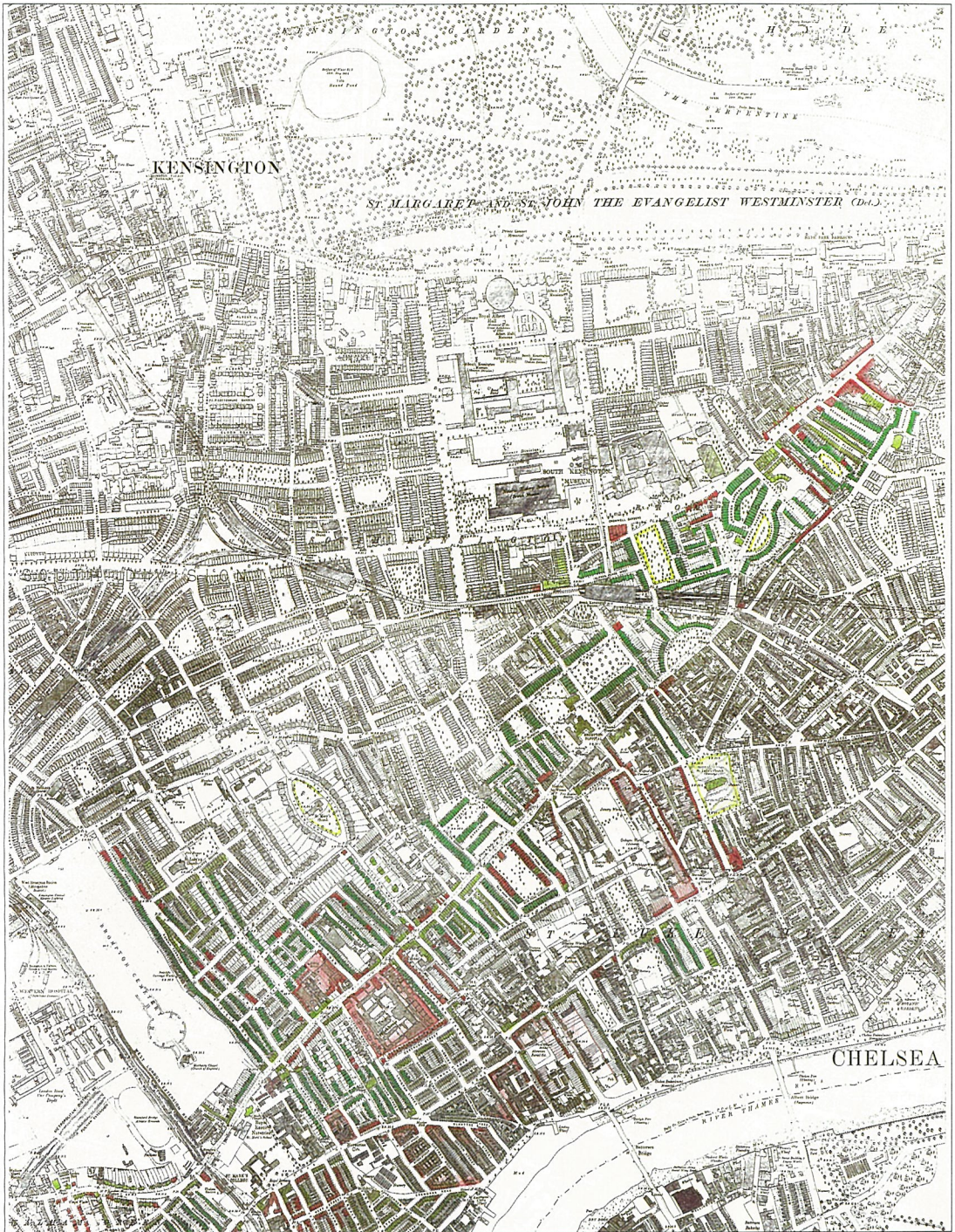
話を戻すと、Terraced House は結構古い建物である。これは日本の近代建築の保存再活用を研究しているものにとっては見逃せない素材である。棟単位でみれば当初同じに(ある棟の中の住戸それぞれは)造られた各住戸は、今日変革に対する幾つかの規制があるにもかかわらず、可能な範囲で変化してきている。それは内部に留まらず外部においても種々見られる。歴史的建物を素材とした町造りそして都市景観と言う観点からも興味深い対象である。またこの Terraced House は様々な表情を持っている。1住戸で独立した顔を持つものもあれば、各住戸は一つの部品であり、



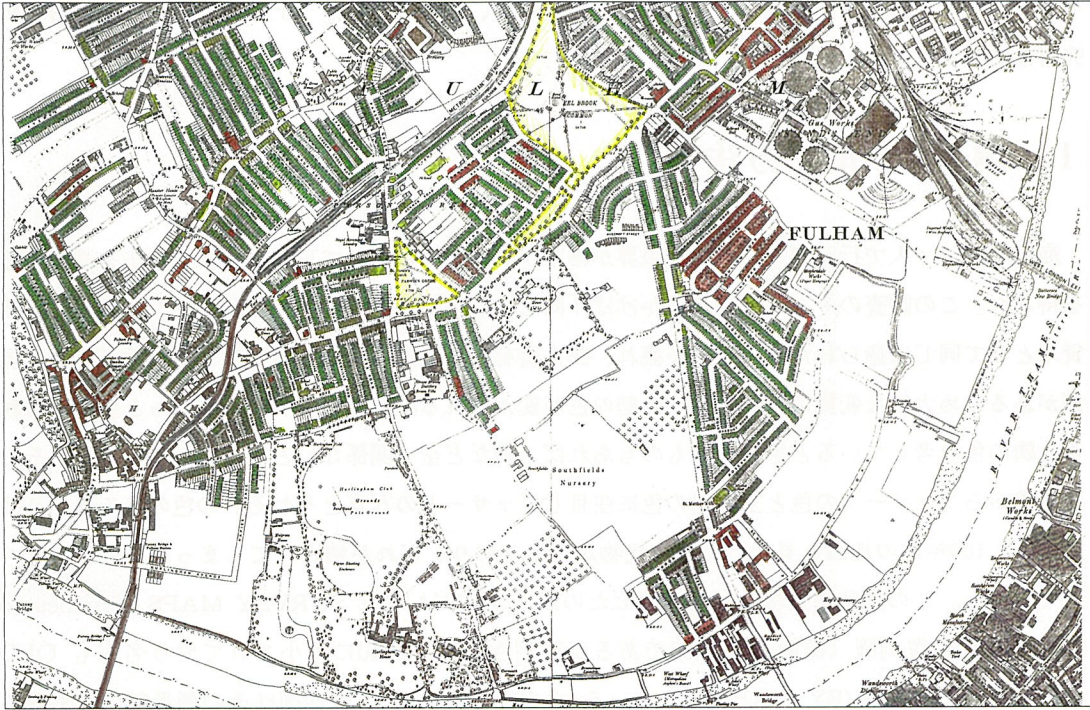
地図：01 SHOREDITCH 地区建物残存状況 緑：データを採取 黄緑：存在を確認 赤：取り壊し確認 黄色：公園（以前からの公園も含む）。（地図の塗分け以下同文）



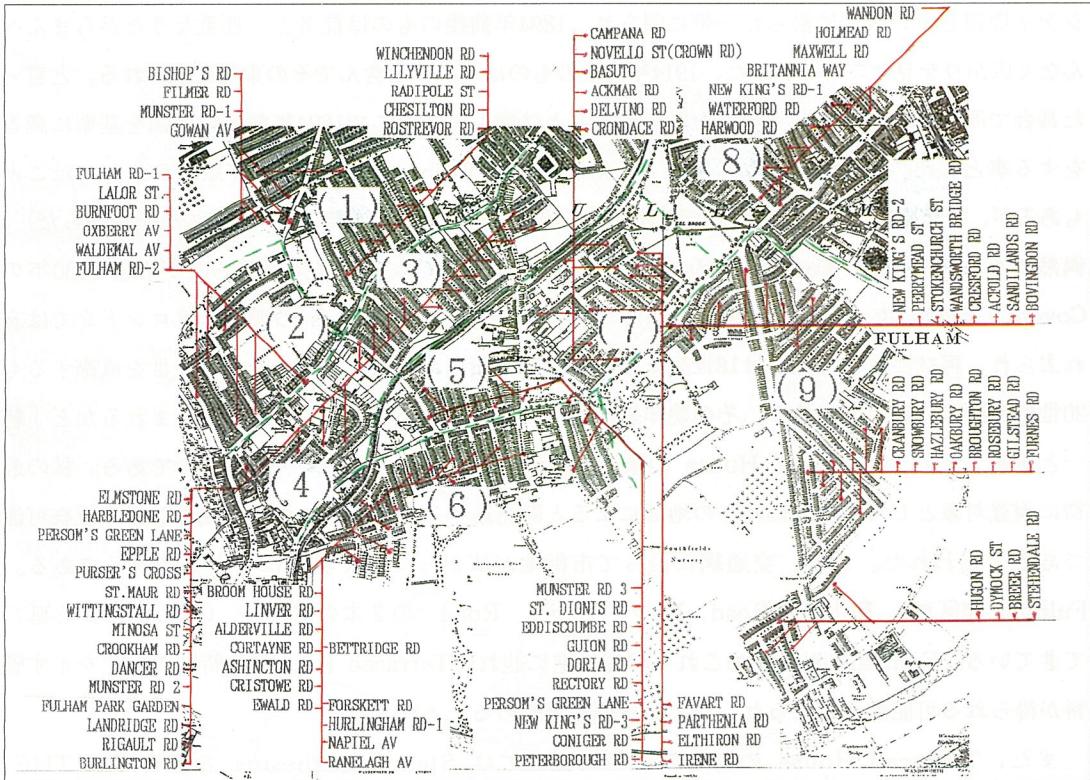
地図：02 BETHNAL GREEN 地区建物残存状況



地图：03 CHELSEA 地区建物残存状况



地図：04 FULHAM 地区建物残存状況 ほとんど残されているが部分的建替が見られる（写真：14）。



地図：05 街路名称と位置

それが数個または数十個集まって形を成すものもあり、建築のファサード構成の点からも面白い研究対象である。

1. 調査の目的と方法

海外の地で一人で行う調査には自と限界があり、公的空間において可能な対象、方法を選ばざるを得ない。この調査のそもそものきっかけは「同じに造られたものがどう変わるか」にあった。賃貸用として同じに造られたものが時が流れ、個人所有になると住まい手の個性が溢れはじめる。規制があるため大幅な変更は無いものの外壁の色が変えられる。戸境壁の中央でびたっと塗分けられる。隣の色を考えていると思われるものもあれば、隣など全く関係ないといったものもある。そんな興味からファサードの色と玄関扉の色に注目しファサードの写真とそれぞれの色のメモをとりはじめた。100年前の地図と見比べてどの建物が残っており、どれが壊されてしまったかもチェックして歩いた。この際基準資料として使用したのが「ORDNANCE SURVEY MAPS, 25 inches to the mile」の復刻版（原版は1/2500であるが復刻版は約1/4340に縮小されており名称も OLD ORDNANCE SURVEY MAPとなっている（**））である。この地図はその測量年代によって1870年前後、1894年前後、1914年前後の3種類があるが、現在市販されている1870年前後のものはシティ周辺とテムズ川に沿った一帯に限られ、1894年前後のものは前者と一部重なりながらもほとんど広がりを見せている。また、1914年前後のものはシティを含んでその東側に限られる。と言った具合で同一年代でロンドン全域を網羅することは難しい。そこで1894年前後の地図を基準に調査をする事とした。その理由は私の調査してみたかった Fulham 地域は1894年版しか無かったこともあるが、（市販されていないだけで原版はあるのかも知れないが当時は調べる術を知らなかった）、偶然にもこの年代は Terraced House 研究自体においてもある意味を持っていた。1630年の Covent Garden で Inigo Johnes が始めて試みたこの形式は Johnes の死後一旦ロンドンでは忘れ去られ、再び注目されたのは18世紀末から19世紀初頭であった。そしてその後一世を風靡するも20世紀初頭には廃れてしまう。その晩年期には擬セミデタッチドといった形式も生まれるなど「統一と連続」という Terraced House の原理が乱れ、意匠的にも世紀末を迎えたのである。私の最初に調査対象とした地区は1894年の地図によると開発途中であり、当時の最先端の意匠が観察可能であると思われた。また、交通網に沿って市街地が広がっていく現象は古今東西同じである。Fulham 地区にも Fulham Road, New King's Road の2本の道路が Chelsea から伸びてきている。Fulham から始めこれらの道を逆に辿れば Terraced House の時間的変化を示す資料が得られる可能性も考えられ、ここから調査を始めることにした。

また、Terraced House の発生変化等については Stefan Muthesius の著した「THE

ENGLISH TERRACED HOUSE」(Copyright 1982 by Yale University)を中心とした文献資料に依った。

まえおきが長くなってしまったが、結果としては Brompton 辺りまで300余の家並、約6,000住戸分を採取した。今回はこの調査データを基に Fulham 地区151家並3550住戸分の、家並としての Terraced House の状況について報告する。

2. 研究方法

研究方法として明確な手法が確立されている訳ではない。このTerraced House の特色は同種のもものが連続して立ち並んで家並を造っているところにある。そこで、今回は各住戸の接続の仕方、並べ方そして全体としての構成について研究をすすめる。その具体的な方法としては、細部の装飾を取り除き、できるだけ概念化(記号化)した形で対象を認識することである。そこでそのような形で全家並みの立面を描いてみることから始めた。この際問題となるのは、省略の限界線をどこに引くかということである。今回の場合は次のような基準を設けた。

- ・各住戸の間口は一律とし各戸の相違は考慮しない。(ただし、同一タイプで1戸のみ異なる場合などは別とする。)
- ・階高は各階毎に一定とする。
- ・屋根面は描写しない。
- ・玄関を除き開口部は描写しない。(ゲート状に通抜けと成っている場合等はその都度考慮する。)
- ・ヴァルコニー、玄関への階段(Basementがある場合)、Bay Window、Bow Window 等は記号化して描く。
- ・軒の出る形か、パラペット形かの別を記号化して描く。
- ・玄関の形の別はポーチ形式、張り出し庇、これらの無いものを描き分ける。
- ・戸境壁は表面にでてこない場合でも住戸単位を明確にするために破線で描写する。

以上の点を考慮し、写真を基に90街路154家並、3,550住戸について街路側の立面図を作成した。

(図面：01～06参照)

3. 単位住戸のファサードと家並

家並を構成する単位となる住戸のファサードは実に様々なものがあるが、それ自体の構成を考えてみていくと、元となる壁面とそこに配された玄関、窓などの開口部が基本となるが、全体の構成を見ていく場合特に大切なのが壁面の基本形と玄関の位置である。壁面の形では縦横の微妙な比率

と言ったことではなくもっと大ざっぱに2階建であるか3階建であるか、Basement がついているかと言ったことと、切妻形や凸形といった上辺の変形がポイントになる。玄関はその位置である。これによって住戸の連結形に影響がでる。開口部でも窓は Bay Window などの場合を除いて余り関係ない。というのは住戸単位で見れば玄関及び窓の位置・大きさはファサードの構成に大きな役割を果たすが、平面計画との関係から中・小規模 Terraced House においてはほとんどの場合ファサードの美的構成と言った観点での配置は不可能だからである。窓が全体の構成面で意味を持つのは Bay Window など特殊な形を成す場合である。この他にはヴァルコニー、玄関ポーチなどの付加的要素も構成に影響を与える場合が多い。写真：01から10は壁面の縦への変化を中心に見た場合の構成例である。写真：01から04は Bay Window の無い場合の変化例で、写真：01は2階建でプレーンな壁面の中央に玄関がある例、写真：02は同じく2階建で玄関がどちらかの端によっている例、写真：03はその3階建の例、写真：04は2階建で Basement がある例である。写真：05から10は Basement の付く例で、写真：05は2階建に1層の Bay Window の付いた例、写真：07は3階建でヴァルコニーの付いた例、写真：09は3階建で2層の Bay Window の付いた例である。写真：06は2階建 Bay Window 付きに Basement が付いた例、写真：08はその3階建の例、写真：10は Bay Window が2層になった例である。

写真：25から48は壁面自体の変形、Bay Window の変形による単位住戸ファサードの例である。

次に、住戸を連続して並べるには幾つかの形式が考えられるが、Terraced House の場合それは単純である。全て一直線上に壁面を揃えて並べてある。プライベートの観点からも重要である玄関の位置も全体として見れば中央にあるもの、統一的に片方に寄せたもの、2件づつ隣あうものと3種の型があるが、量的観点からみれば圧倒的に2件づつ隣あうものが多く、次に片方に寄せたもの、中央のものはWandon rd.の1例(写真：01)を除いては家並の端部でたまに見かけるくらいである。(その理由について Muthesius は住戸の間口と裏庭側への拡張をその主原因として挙げている。「1.間口の狭い家で中央に通路をとったのでは部屋が分断されてしまう。2.裏庭側の拡張部分の屋根は隣の同部分と一緒に一つの屋根を架けるため2住戸がひとまとまりとなる必要があった。」確かに私の収集したものでも片方に寄せてるのは Crown st. (現Novello st. 写真：05) など裏庭側に拡張部の無いものである。)。庶民住宅として投機目的でこの形式の住宅が広まったと言う成立過程を考えれば、経済的に効率的な並べ方がとられたのも無理からぬことである。また Terraced House では幾つかの住宅をまとめて立派な大建築を造ると言う Inigo Johns の原点に照らしてみても個々の住戸の高度な独立性を求めるような処置は表現的には望むべくも無いのかも知れない。しかし、私が今回対象としているのは Inigo Johnse や Nash などが手がけた大規模なものではない。確かに意匠的にも大規模のそれから中規模、小規模のそれへ流れて行ったのは確かであろうが、そこにはMuthesius も指摘するように、規模による表現の限界、適正意匠があっ

たはずである。事実今回採取したデータにも多く見られる Bay Window なども採光という機能的な要求もさることながら意匠的意味から多用されたようである。それならば、中・小規模の Terraced House にはそれなりの全体構成があつてしかるべきであろう。そこで一つの家並で用いられている住戸ファサードの種類数、家並構成の基本単位となる部分の構成の型、家並の型、街路両サイドの関係のについて表：01にまとめてみた（表：01参照）。

一つの家並に何種類の住戸ファサードが用いられているかについては、線対称形のものは同一とみなす他、家並の端等に調整目的または端部の表現のために一つのみ用いられたものはカウント外とする（端部の例は写真：21から24参照）。結果としては1種類のみで構成されている家並が96と断然多く、次いで2種類の35、3種類は12、4種類以上は7という結果であった。

家並構成の基本単位となる部分の構成の型といった点では、次の6つの観点から分類した。

- (a). 同じ向きで単に並べていくもの　－7家並。
- (b). 鏡映しの2戸を組み合わせたもの　－117家並。
- (c). 鏡映しの2戸を組み合わせて意味の感じられる別の形を成すもの　－14家並。
- (d). (b). と(c)を組み合わせて更に大きなパターンをなすもの　－5家並。
- (e). (b)または複数の(b)と別の1戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの　－6家並。
- (f). (b)または複数の(b)と別の複数戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの　－4家並。

(b)タイプが圧倒的に多く、それらを組み合わせてリズム感など構成的な試みをしているものは少ない。

次に全体の構成を見ていくと

- (ア). (a)または(b)など単一のパターンを連続させるもの　－108家並。
- (イ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(それぞれの群は通りで分節されている)　－7家並。
- (ウ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(通り等による分節なし)　－32家並。
- (エ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べることで家並にリズムを生み出したり、一つの形を成すもの　－5家並。

の4つの傾向が見られる。ここでも全体を考えた構成は極僅かである。狭い道路を挟んで建ち、全体を眺める視点を確保しえない建物の場合仕方の無いことなのであろうか。

この他では極めて少ない例として、セミデタッチド形式ではあるが、隣棟が次々に別のデザインのもの(Napier av.(W))、セミデタッチドのペア同士が異なるデザインであり且つ隣棟とも異なるもの(Ranelaoh av.(E)写真：47)もみられる。Muthesiuse は1905年のMargaret Terraceを引き合いに出して各戸が異なったデザインをしているのでもはやTerraceとは呼べないと記しているが、そのような兆候が1894年以前の住宅開発地の中規模Terraced Houseにおい

表：01 家並分類一覧 (街路名称の後の(N,S,E,W)は街路の北、南、東、西側の家並を示す。)

街路名称	方位	住戸種類数	構成単位数	家並型	両側関係係	地域番	街路番号	掲載番号	街路名称	方位	住戸種類数	構成単位数	家並型	両側関係係	地域番	街路番号	掲載番号	街路名称	方位	住戸種類数	構成単位数	家並型
ACFOLD RD	E	1	c	7	0	9	315	05	HOLMEAD RD	E	1	a	7	3	8	136	05	W	1	b	7	
ACKMAR RD					4	7	104	04	HUGON RD	N	1	b	7	4	9	354	06	S	2	b	7	
ALDERVILLE RD	E	1	b	7	1	6	21	03	HURLINGHAM	N	9	e	1	4	6	31	02	S	3	b	7	
ASHINGTON RD	E	1	b	7	1	6	41	03	IRENE RD	E	1	b	7	1	7	112	04	W	1	b	7	
BASUTO	N	1	b	7	4	7	359	04	LANDRIDGE RD					4	4	80	02	W	1	b	7	
BETTRIDGE RD	N	2	b	7	4	6	43	03	LILYVILLE RD	E	2	b	7	4	1	17	01	W	4	b	7	
BISHOP'S RD	N	2	b	7	4	1	71	01	LINWER RD	E	2	d	7	04	6	33	03	W	4	d	7	
BOVINGDON RD	N	1	c	7	1	9	317	05	MAXWELL RD	E	2	a	7	4	8	137	05					
BREER RD	E	1	b	7	4	9	350	06	MINOSA ST	E	2	f	1	0	3	3	02	W	2	f	1	
BRITANNIA WAY	E	1	b	7	4	8	128	05	MUNSTER RD 1					4	1	308	01	W	1	b	7	
BROOM HOUSE RD					4	6	23	03	MUNSTER RD 3	E	3	b	7	4	5	35	03	W	1	b	7	
BROUGHTON RD	E	1	b	7	4	9	319	06	MUNSTER RD 2	E	2	b	7	4	3	11	02					
BURLINGTON RD	E	1	a	7	4	4	72	02	NAPIEL AV	E	4	b	7	4	6	55	04	W	4	b	7	
BURNFOOT RD	N	2	b	7	0	2	73	01	NEW KING'S RD-1	N	1	b	7	4	8	311	05	S	1	b	7	
CAMPANA RD	N	1	b	7	1	7	85	04	NEW KING'S RD-2					4	6	101	04	S	1	b	7	
CAMPANA RD					4	7	87	04	NEW KING'S RD-3					4	9	328	06	S	3	b	7	
CHESSILTON RD	E	2	e	7	4	1	1	01	NOVELLO ST(CROWN RD)	N	2	a	7	4	7	114	04					
CONIGER RD	E	2	c	7	0	6	88	03	OAKBURY RD	N	1	b	7	1	9	341	06	S	1	b	7	
CORTAYNE RD	E	1	b	7	1	6	45	03	OXBERRY AV	E	3	b	7	4	2	61	01	W	1	b	7	
CRANBURY RD	E	1	b	7	1	9	337	06	PARTHENIA RD	E	1	b	7	0	7	139	04	W	1	b	7	
CRESFORD RD	N	1	c	7	4	9	321	05	PERRYMEAD ST	E	1	c	7	1	9	329	05	W	1	c	7	
CRISTOWE RD	E	1	d	7	4	6	47	03	PERSON'S GREEN LANE	E	1	b	7	1	3	142	02	W	1	b	7	
CRONDACE RD	N	2	b	7	4	7	89	04	PERSON'S GREEN LANE					4	5	37	03	W	1	b	7	
CROOKHAM RD	E	2	b	7	1	3	5	02	PETERBOROUGH RD	E	3	d	7	4	6	68	03					
DANCER RD	E	2	f	1	0	3	7	02	PURSER'S CROSS	S	1	b	7	4	3	12	02					
DELVINO RD	N	1	b	7	1	7	92	04	PURSER'S CROSS	E	2	c	7	4	3	13	02	W	2	b	7	
DORIA RD	N	1	b	7	1	5	24	03	RADIPOLE ST	E	1	b	7	14	1	19	01	W	2	b	7	
DORIA RD	E	1	b	7	1	5	25	03	RANELAGH AV	E	8	b	7	4	6	57	04					
DYMOCK ST	E	2	b	7	4	9	352	06	RECTORY RD	N	1	b	7	4	5	38	03	S	2	b	7	
EDDISCOMBE RD	E	1	b	7	4	5	27	03	RIGGAULT RD	N	1	b	7	1	4	81	02	S	1	b	7	
ELMSTONE RD	N	1	b	7	0	3	132	02	ROSEBURY RD	N	3	b	7	1	9	345	06	S	3	b	7	
ELTHRON RD	E	1	b	7	1	7	94	04	ROSTREVOR RD	E	1	b	7	14	1	63	01	W	1	b	7	
EPPLE RD	E	2	b	7	0	3	9	02	RUMBOLD RD	E	1	b	7	3	8	143	05	W	1	b	7	
EWALD RD	N	2	b	7	4	6	49	04	SANDILANDS RD	N	1	b	7	4	9	331	05					
FAVART RD					4	7	96	04	SNOWBURY RD	N	1	b	7	1	9	347	06	S	1	b	7	
FILMER RD	E	1	b	7	4	1	75	01	ST. DIONIS	N	1	b	7	4	5	40	03					
FORSKETT RD	E	2	d	7	1	6	51	03	ST. MAUR	E	1	b	7	0	3	356	02	W	1	b	7	
FULHAM PK GD	N	8	b	7	4	4	76	02	STEHENDALE RD	N	1	c	7	4	9	349	06					
FULHAM RD-1	E	1	b	7	4	2	58	01	STOKENCHURCH ST	N	1	c	7	1	9	332	05	S	1	c	7	
FULHAM RD-2	N	3	b	7	4	4	78	02	WALDEMAL AV	E	1	b	7	4	1	65	01	W	1	b	7	
FURNES RD	N	1	b	7	1	9	322	05	WANDON RD					4	8	147	05	W	1	a	7	
GILSTEAD RD	E	1	b	7	4	9	326	06	WANDSWORTH BRIDGE RD	E	1	c	7	1	9	312	05	W	1	c	7	
GOWAN AV	N	1	b	7	0	1	306	01	WANDSWORTH BRIDGE RD	E	2	e	7	1	9	313	05					
GUION RD	E	1	b	7	1	5	29	03	WANDSWORTH BRIDGE RD	E	3	b	7	1	9	314	05					
HARBLESTONE RD	N	1	b	7	4	3	134	02	WATERFORD RD	E	1	b	7	3	8	148	05	W	2	b	7	
HARWOOD RD	E	1	b	7	4	8	110	05	WINCHENDON RD	E	1	b	7	1	1	309	01	W	1	b	7	
HAZLEBURY RD	E	3	e	7	1	9	339	06	WUTTINGSTALL RA	E	1	b	7	1	3	15	02	W	1	b	7	

(注) 地域番号は地図：05に示す番号

ては既に現れていたものである。(地図によるとこれらは各10戸前後建設されてその先は空き地となっているが、現在は鏡映しのパターンで同一のものが連続して建っている。地図：04, 05参照)

以上はそれぞれの家並単独での状態を見てきたが、最後に道路の両側に立ち並ぶ家並の道路を軸とした関係についてみる。

- (0). シンメトリーを感じるもの -10 街路 (構成単位が部分的に異なるものも含む)。
- (1). 単位の並び方が同じ -30 街路
- (2). 同じ並び型であるが順序が逆である -0 街路
- (3). 同じ構成単位であるが並べ方には関係性が見られない 4 街路
- (4). 構成単位も異なり、関係性は見られない -44 街路

と、完全にシンメトリーであるものは無かったが、それを感じさせるものは10街路と以外に多い。また、(1)も30街路あり、片側にのみ交差道路がくるなどして街路そのものの左右対称性が保たれていたならば、シンメトリーな街路はもっと多かったのではと思われる。私は観念的に(2)のような関係も期待したのであるがこれは全く無かった。

さらに Fulham 地区を9地区に区分して見てみると第1地区は1種類のファサードで線対称形の組み合わせでそれを単純に連続させる家並と街路の左右がバラバラな家並が多いが、シンメトリーを感じさせるものも少なくない。第2地区もほぼ第1地区と同様であるが、2種類のファサードをもちいてシンメトリーを感じさせるものがある点が異なる。第3地区も全体的には第1地区とほぼ同じであるが、2種類のファサードを用いて数区に分けた家並に、あるパターンを構成するよう配置しているものが複数見られる点が特徴的である。第4地区は数も少ないので傾向をまとめると言うには適しないが特徴的なことは線対称の組み合わせを持たない家並があることと、3種類のファサードを持つ家並があることである。第5地区はシンメトリーを感じさせる家並が全く無いことと類似のファサードが多いことが特徴である。第6地区は2から8種類と複数のファサードを1家並に持つことが特徴的である。また線対称の二つを組み合わせたものと、二つを組み合わせる意味の感じられる別の形を成すものを組み合わせる更に大きな配列パターンを構成する家並があることが特徴的である。第7地区は外側を3階建の家並で囲い中に2階建同一ファサードの家並で埋めるといった特徴が見られる。第8地区は他の8地区とは異なり、軒先でパラベットを立ち上げたものが多いこと、Bay Window を用いないものが多いことなどが特徴である。第9地区は1種類のファサードで線対称形に組み合わせ、それを単純に並べて、街路の両側とも同じ構成であるものが断然多いが、両側の関係は無いものも多い。また、線対称の二つを組み合わせたものと、二つを組み合わせる意味の感じられる別の形を成すものを組み合わせる更に大きな配列パターンを構成する家並があることが特徴的である。さらに北部、中部、南部と地区に依って使用ファサード、パターンが統一されている等の特徴も見られる。流行の変化の現れであろうか。

4. まとめ

以上の結果をまとめてみると、中・小規模 Terraced House における住戸のファサードのデザインは実に様々なものがあるが、構成要素としては限られており、絞り込んで四つ、緩めに見て八つぐらいにまとまりそうである。その構成は原理的にはそれら要素の組み合わせによる場合の数と言うことになるだろうが、まだ結論には達していない。また、期待していた程には家並の構成ということも行われていなかった。それは住宅地の開発方式の問題があるのかも知れないが、建築の様式に対する考え方の変化にもその因はあるように思われる。大規模建築的な表現から個々を大切に表現へ。そんな趣向の変化も大きく影響していそうである。しかし、道路に沿って Terraced House を見ていくことで、Terraced House の時間的変化が見られるのではという目論見は、第7地区の特異性等にその片鱗を窺い知ることができた。今後はファサードの細部、色などに目を向けて研究を進めて行きたい。

・注記 (*) Terraced House 「建築大辞典」(第2版 1993年 彰国社)には「テラスハウス (TERRACE HOUSE)」の項目があり、「各住戸が区画された専用の庭を持つ連続住宅。多くは2階建て、各戸が境壁を共有しながら土地と接している。庭がある点では独立住宅の性格を持つ。テラスともいう。」 Terraced House と共通する点もあるが「2階建て」と階数を限定しているところが異なる。また同書で「テラス」を見てみると、幾つか並んだ説明の中に「台町、坂町。台地に家の並んだ町、または傾斜地の両側にひな段状に並んだ町。」とある。

Dictionary of Architecture and Construction (Edited by Cyril M.Harris Copyright (c) 1975 by McGraw-Hill)では「Terrace House:テラスまたは類似の敷地に建つひとつつながりの住宅の一つ。」、「Terrace:1.上面が平らな土手、時には舗装されたり、植栽計画がなされたりし、暇なときの使用のために装飾が施されている。2.平らな屋根または隆起下空間または台地(プラットフォーム)で建物に接続していて、舗装または植栽されていて、例えば暇なときの楽しみのために使われる。」これは「建築大辞典」の「テラス」の説明に合致するが、私が見てきたものとは必ずしも合致しない。そこで「Doreen Yarwood Encyclopaedia of Architectur」((C) Doreen Yarwood 1985 B. T. Batsford Ltd.)をみると、「Terrace Architecture:テラスは他と接続して建られ統一された方法でデザインされて立ち並ぶ家の列である。」と規定している。これが現状とは一番合致するが用語が微妙に異なる。「Terraced House」という用語は見つからないのである。不注意にも出典名を記録した紙を紛失してしまったのだが、ロンドンの本屋で立ち読みした建築辞典によると Terraced House の項目があり説明もされているのであるが最後に「正

式には Terraced House という名称はない」というようなことが述べられていた。

「Terrace House」、「Terrace」、「Terrace Architectur」、「Terraced House」大きさも様式も住まい手の階級も異なるこの建物を一括する用語は正式には無いようであるが、「The English Terraced House」にも「1905年の Margaret の4件からなる家の列はもはや terrace とは呼ばれない、各家が全く異なったファサードをしているので。(p191)」とあり、家が列を成して並ぶこととデザインの統一が terraced house のキーワードであることは確かだ。「Terrace Architecture」と「Terraced House」どうやら同じ物を指すようであるが、私がここで扱おうとしている建物が住宅であることで語感からここでは「Terraced House」を用いることにした。

(**) 英国の古い都市地図としてはこの他「ORDNANCE SURVEY TOWN PLANS, 10 feet to the mile, surveyed in the late 1880s」がある。

主要参考文献

- Stefan Muthesius THE ENGLISH TERRACED HOUSE 1982, Yale University
Doreen Yarwood DOREEN YARWOOD ENCYCLOPAEDIA OF ARCHITECTUR 1985,
B.T. Batsford Ltd.



写真：01 WANDON RD.(W)(8)(05)



写真：02 BRITANNIA WAY(E)(8)(05)



写真：03 RUMBOLD RD.(W)(8)(05)



写真：04 WATERFORD RD.(W)(8)(05)



写真：05 NOVELLO ST.(N)(現 CROWN RD.)(7)(04)



写真：06 NEW KING' S RD. -1(E)(8)(05)



写真：07 BISHOP' S RD.(E)(1)(01)



写真：08 HARWOOD RD.(E)(8)(05)

* (E)等は方位、(1)等は地区番号、(01)等は図面番号



写真：09 WALDEMAL AV.(W)(8)(05)



写真：10 RADIPOLE ST.(E)(1)(01)



写真：11 CROOKHAM RD.(E)(3)(02) 12 との対比



写真：12 CROOKHAM RD.(E)(3)(02)



写真：13 PURSER' S CROSS RD.(W)(3)(02)異種の接続



写真：14 DANCER RD.(W)(3)(02) 部分的立替



写真：15 DANCER RD.(E)(3)(02) 複数種類の構成



写真：16 MINOSA ST.(E)(3)(03) 構成

* (E)等は方位、(1)等は地区番号、(01)等は図面番号



写真：17 CHESILTON RD.(E)(1)(01)分節



写真：18 WANDSWORTH BRIDGE RD.(E)(9)(05)リズム



写真：19 PURSER'S CROSS RD.(E)(3)(02)塗分け



写真：20 PETERBOROUGH RD.(E)(6)(03)リズム



写真：21 MINOSA ST.(W)(3)(02)端部の処理



写真：22 CONIGER RD.(E)(6)(03)端部の処理



写真：23 WINCHENDON RD.(E)(1)(01)端部の処理



写真：24 OAKBURY RD.(N)(9)(06)端部の処理

* (E)等は方位、(1)等は地区番号、(01)等は図面番号



写真：25 ALDERVILLE RD.(W)(6)(03)



写真：26 LINVER RD.(W)(6)(03)



写真：27 BROOMHOUSE RD.(W)(6)(03)



写真：28 HUGON RD.(S)(9)(06)



写真：29 EDDISCOUMBE RD.(W)(5)(03)



写真：30 ROSTREVOR RD.(W)(1)(01)



写真：31 ROSTREVOR RD.(W)(1)(01)



写真：32 ROSTREVOR RD.(E)(1)(01)

* (E)等は方位、(1)等は地区番号、(01)等は図面番号



写真：33 EDDISCOUMBE RD.(E)(5)(03)



写真：34 LINVER RD.(W)(6)(03)



写真：35 GUION RD.(W)(5)(03)



写真：36 ROSEBURY RD.(N)(9)(06)



写真：37 GOWAN AV.(N)(5)(03)



写真：38 ELMSTONE RD.(N)(1)(01)



写真：39 EPPLE RD.(W)(3)(02)



写真：40 PERSON'S GREEN LANE (E)(1)(01)

* (E)等は方位、(1)等は地区番号、(01)等は図面番号



写真：41 FULHAM PARK GARDEN (S)(4)(02)



写真：42 HURLINGHAM RD.(N)(6)(02)



写真：43 HURLINGHAM RD.(N)(6)(02)



写真：44 HURLINGHAM RD.(S)(6)(02)



写真：45 HURLINGHAM RD.(N)(6)(02)



写真：46 HURLINGHAM RD.(S)(6)(02)

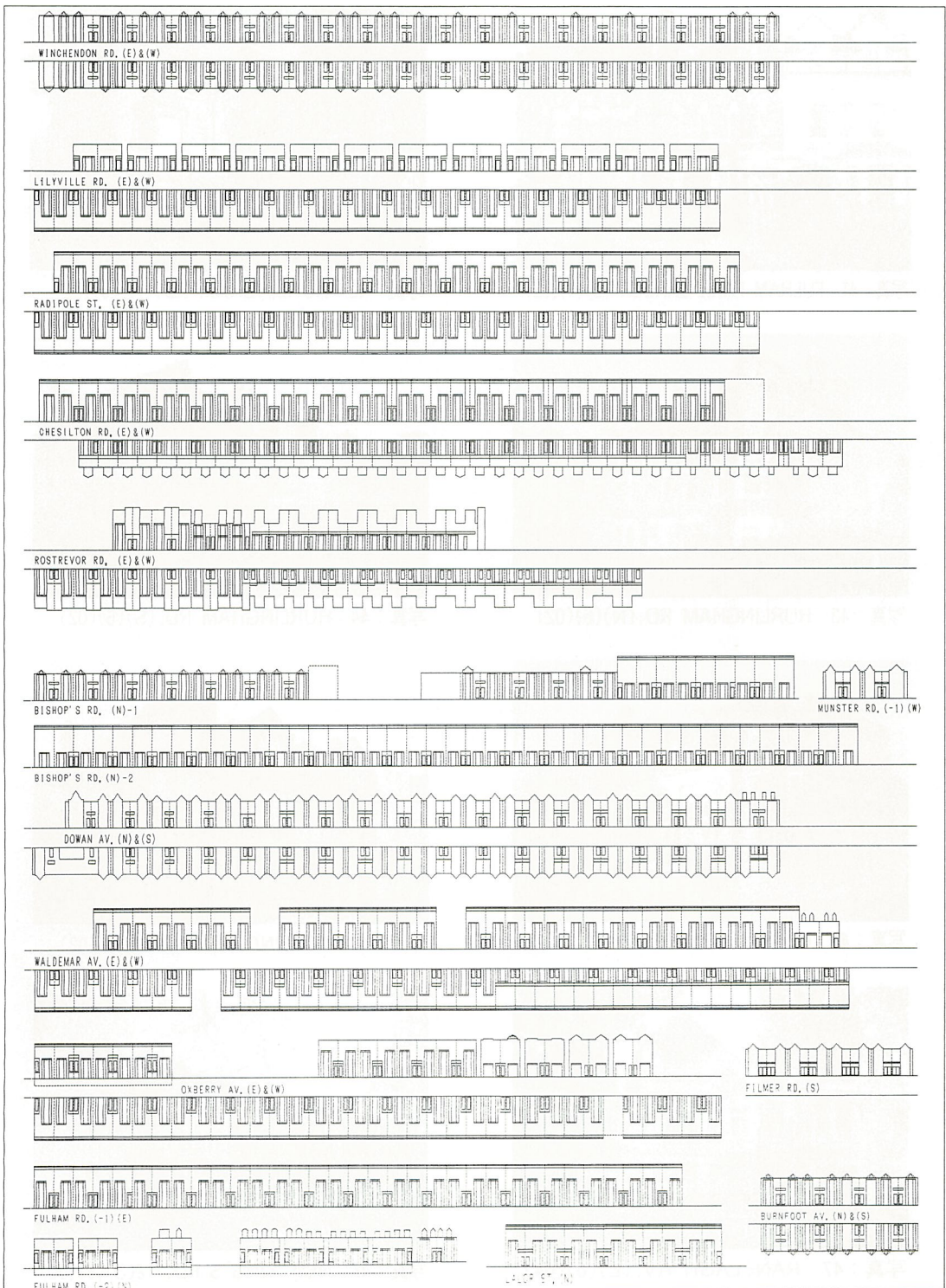


写真：47 RANELAGH AV.(E)(6)(04)

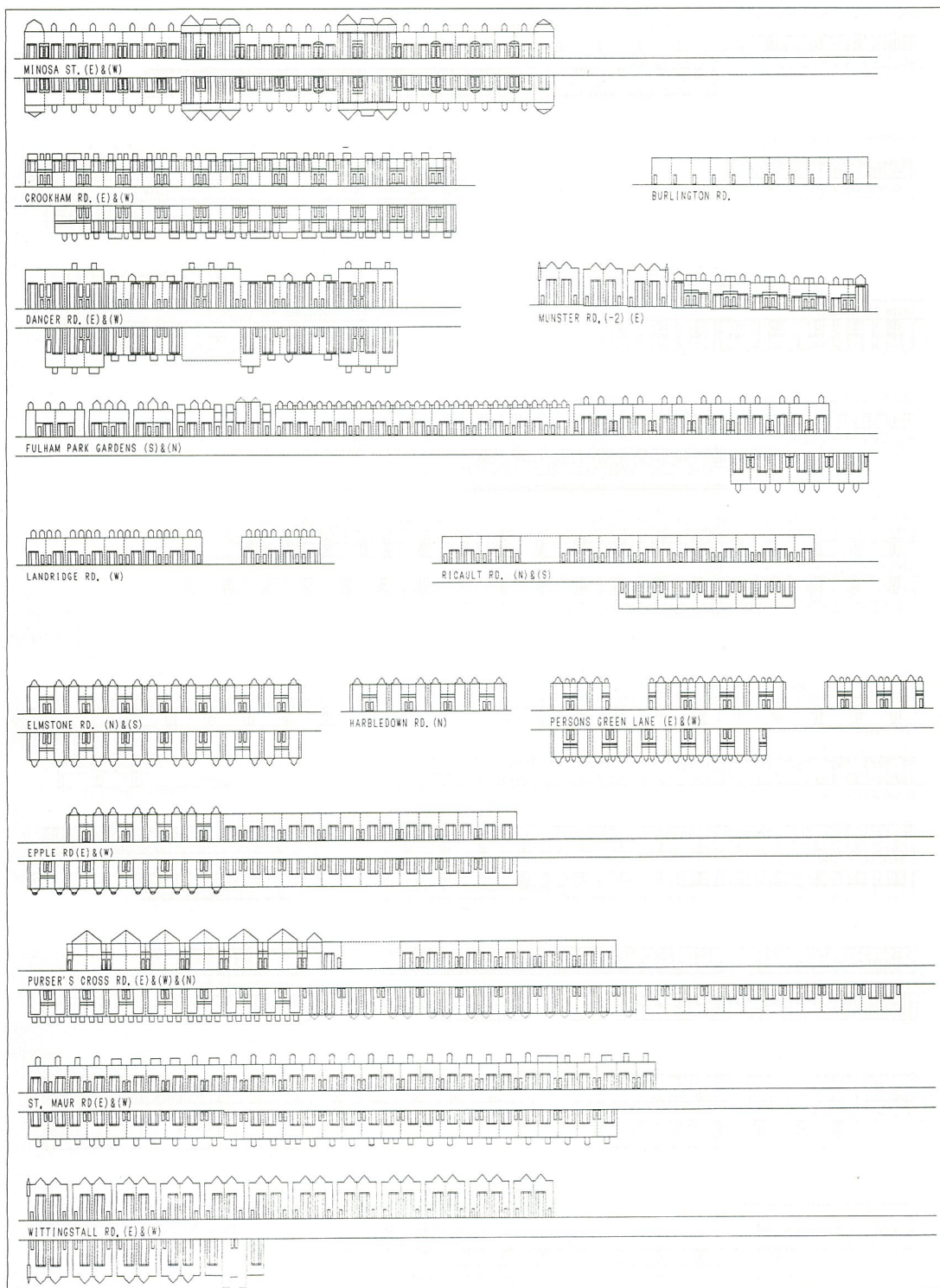


写真：48 NEW KING'S RD.-2(S)(9)(06)

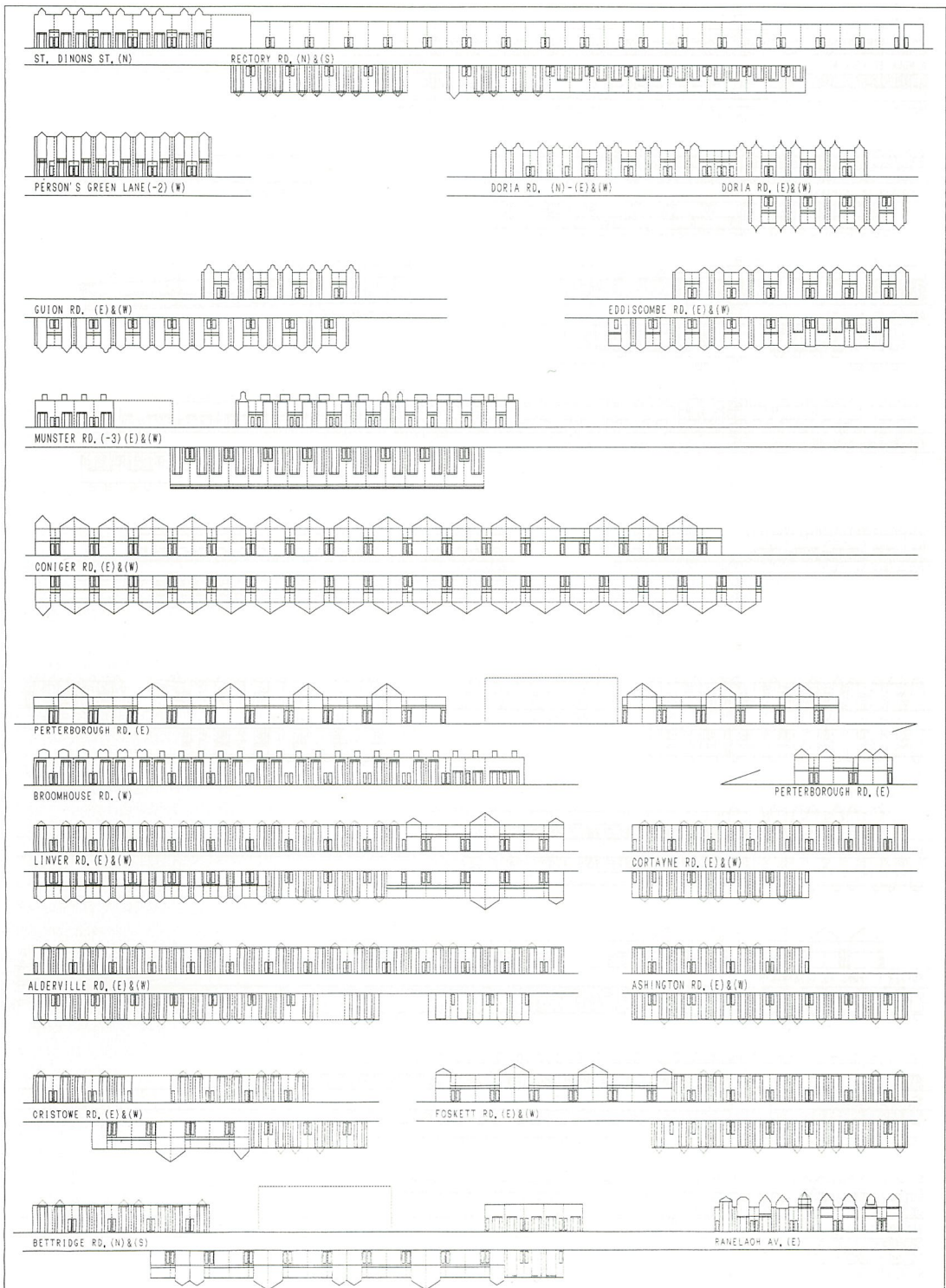
*(E)等は方位、(1)等は地区番号、(01)等は図面番号



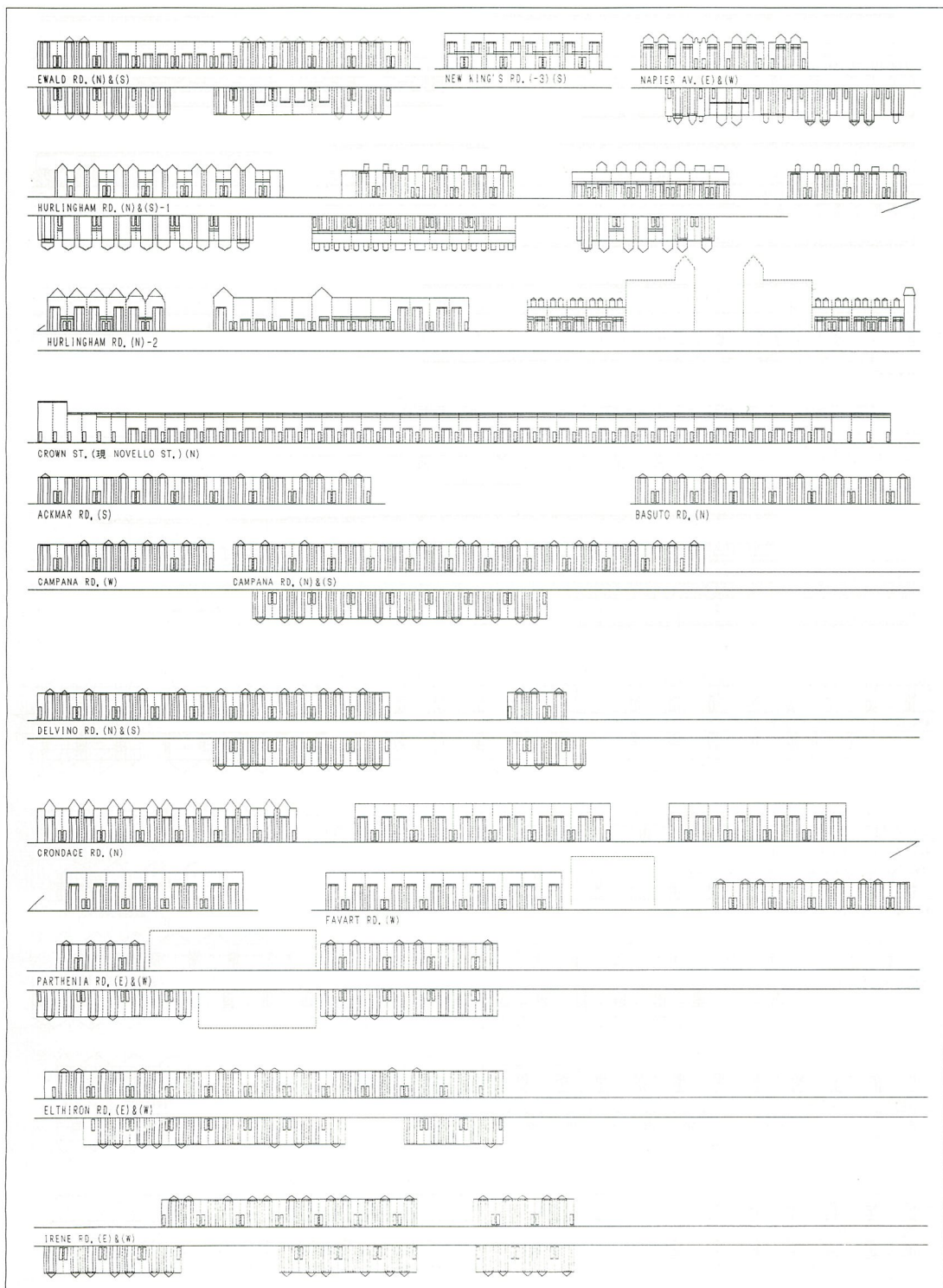
図面：01 家並立面図（第1地区,第2地区）



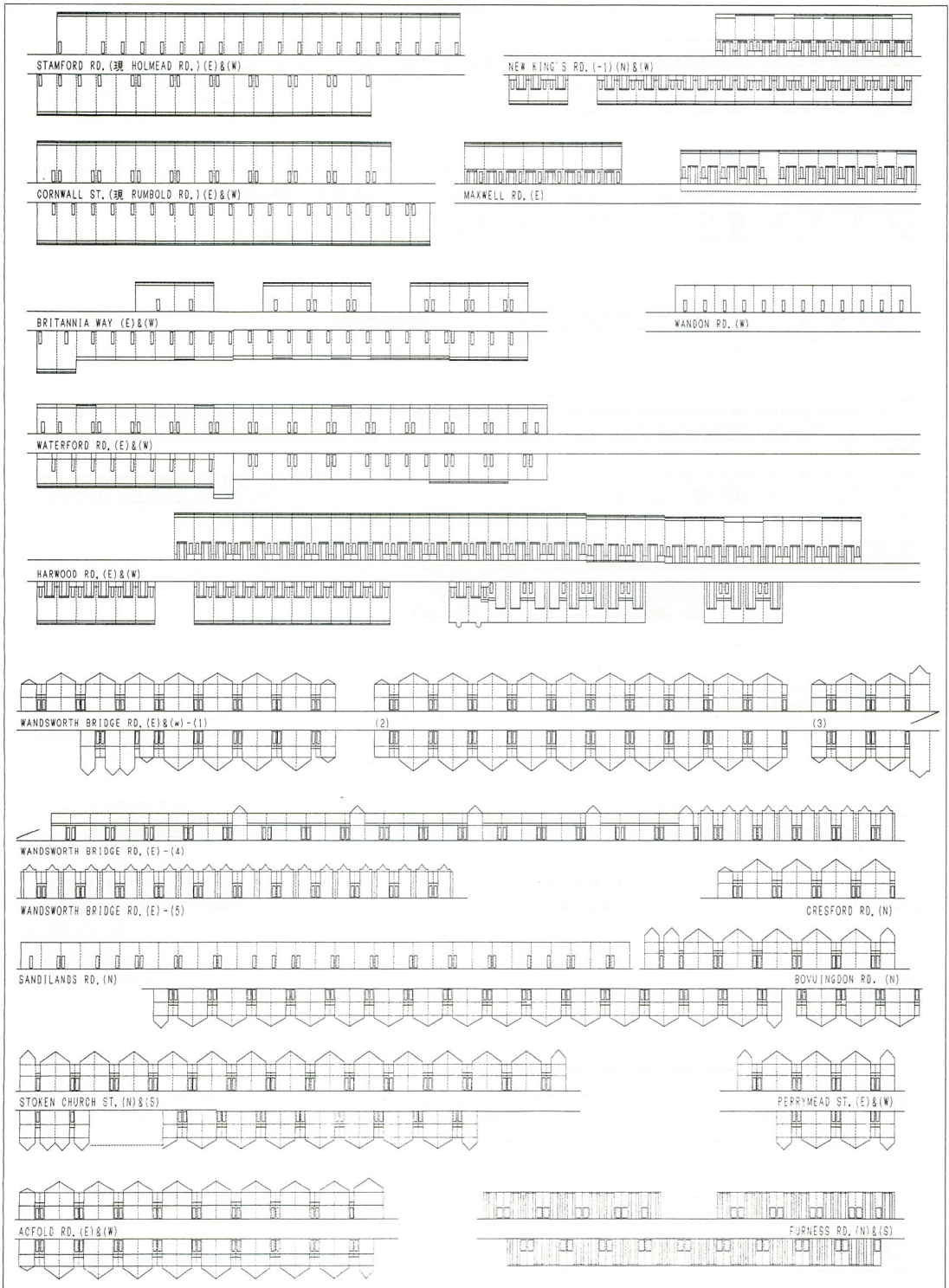
図面：02 家並立面図（第3地区, 第4地区）



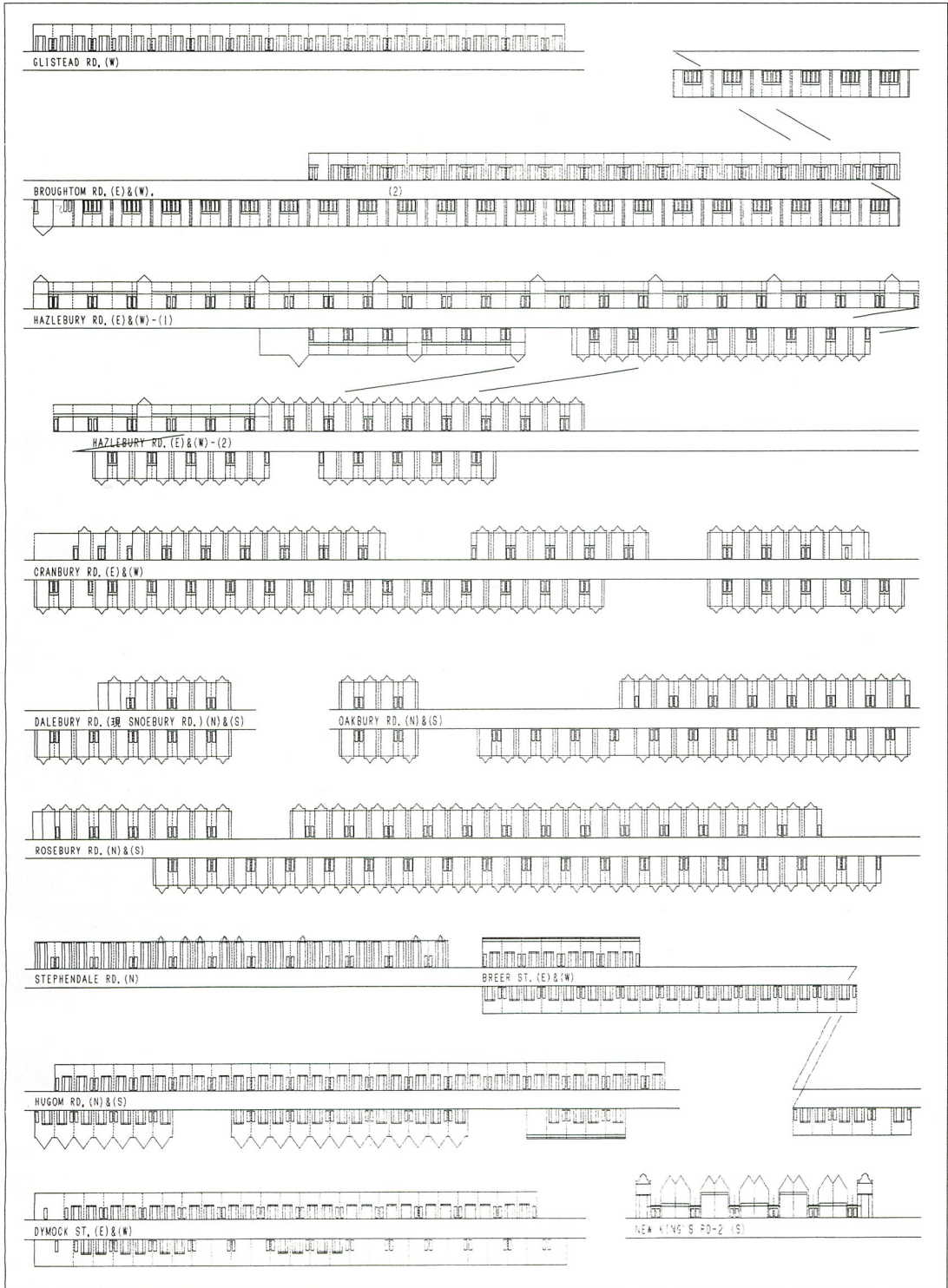
図面：03 家並立面図（第5地区, 第6地区）



図面：04 家並立面図（第6地区,第7地区）



図面：05 家並立面図（第8地区, 第9地区）



図面：06 家並立面図（第9地区）

